

週 報

こひつじ

第41巻 30号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

パンだけにやらす

その二 人は神のことばによって生きる

では、その誘惑とはどのような心を動かすものであったか。その尊い使命からイエスを脱落させるために悪魔だけだ」

悪魔は言った。

「人びとの心をつかみたければ、石をパンに変えるがよい。なぜなら人びとが何よりも求めているのはパンであり、豊かさであり、富であり、事業の成功なのだから。それらのものを約束するなら、人びとはこぞって、あなたのもとにやってくるだろう」

悪魔の言っていることは、あなたがちまちがいではない。

確かに、パンや富、金銭は人の

心を動かす。

「日本では、ただで動くのは地震とある人が揶揄したほどである。

ある日、天上の会議で神がヨブをサタンに自慢されたことがあった。

「おまえはわたしのしもべヨブに心を留めたか。彼のように潔白で正しく、神を恐れ、悪から遠ざかっている者はひとりも地上にはいないのだが」

するとサタンは答えた。

「ヨブはいたずらに神を恐れましようか」

ヨブの信仰といえども、そろば

ん勘定以上のものではない。神がヨブを祝福しておられるから、彼は神を敬っている。ただそれだけのことだ。人間の信仰はみな打算の産物なのだから。それが悪魔の人間観だった。そこで悪魔は言った。

「あなたの手を伸べ、彼のすべての持ち物を打ってください。彼はきつと、あなたに向かつてのろうに違いありません」

サタンのその申し出を神はゆるされた。その結果、ヨブに次々と災難が降りかかるのである。

ヨブは、自分の信仰がためされているとは知らなかった。しかし、すべてを失ったときに、こう言った。

「私は裸で母の胎から出て来た。

また、裸で私はかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな」

ヨブには、パン以上のものがあつたのだ。それは信仰であり、人として尊厳だった。

だから、イエスは言われた。

『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つの

ことばによる』と」

人をほんとうの意味で生かすのは、パンではない。神のことばであるというのが、イエスの見解だった。

人はみな心の世界を持っている。富があればよいというのではなく、心の豊かさを欲し、そのほうがもっと大切だと思っている。

そして心の世界を豊かにするものが言葉なのである。

三重苦をもって生まれたヘレン・ケラーのことはご存じだろう。

彼女は見ることも、聞くことも、話すこともできず、生活の訓練も受けず、家族の同情だけで育った。そのために動物のように何でも手づかみで食べる粗暴な女の子となっていた。

彼女を生き返らせたのは、サリバンという忍耐強い先生だった。彼女の教育で、ヘレンは、おだやかにになり、食事のマナーも身につけた。親はそれで十分だと言った

が、サリバンは満足しなかった。

人が人として生きるには言葉が必要である。それなしに人はみな魂のない人間なのではないか。サ

リバンはそう考えたのである。

普通の子どもたちは、耳と口を使つて言葉を学び、自分の心の世界を解放してゆくのだが、ヘレンには、目も耳も、したがって口もない。あつたのは、指の感覚だけである。

ヘレンを言葉の世界に導き入れるには、それだけが頼りだった。

ある日、ヘレンの片手の上に水が勢いよく流れているとき、サリバンは、急いで別の手に「水」という語をつづる。

そのときヘレンは自分の手に流れている冷たいものと、指に書かれた文字がつながって、初めて手に流れているものが「水」であることを理解する。

それは彼女が最初に言葉を覚えた瞬間だった。

その生きた一語が彼女を目覚めさせ、彼女に光と希望を与え、ついに彼女の魂を解放するのである。母さんが初めて参加してくださいました。

彼女が、水という言葉覚えてから、新しい心の目をもって、すべてのものを見るようになったと言っている。

言葉が彼女を生かしたのである。

(続)

今日の礼拝

○礼拝は午前一〇時半から、

○教会学校は午前一〇時半から。

○説教は江藤洋子さん。証は有働和子さん。

先週の礼拝

○司会は合志文利さん。説教は米村牧師。ルカ五章から、「驚くこと

との意義」について語りました。

○礼拝参加者は第一礼拝が四二名、第二礼拝が三四名、合計七六

名(男二八、女四八)。それに子どもが三名、合わせて七九名でした。

○長く入院しておられた本田佳代子さんが、ぶじ退院して元気な顔を見せてくださいました。

○ルーテル学院の生徒さんとお母さんが初めて参加してくださいました。

報告

近年の台風が大型化している

ことから教会二階の東側の窓に雨戸をつけることにしましたが、工事は二九日に終わりました。

サマー・セミナー案内

左記のように「サマー・セミナー」を開催します。

日時Ⅱ八月一六日(土)ー一七日(日)

会場Ⅱ大津キリスト教会
ゲストⅡ富浦信幸牧師(関西聖書学院舎監)とその家族

○八月一六日(土)

午後三時からピンポンほか。
午後四時から集会。

午後五時からバーベキュー。
○参加費用はバーベキューも含め、無料です。ただし自由献金箱がおいであります。

コロナ禍で、長い間、このような交流ができませんでした。ぜひ参加し、交わりを広げましょう。

○八月十七日(日)

午前一〇時半から礼拝。
説教は富浦牧師です。

礼拝後、昼食交わり会。

牧師身辺

朝七時からの祈り会は続けられています。参加者は五、六人ですが、讃美歌を歌い、内村鑑三の『一日一生』を読み、それからひとりひとり教会の方がたの名前をあげて祈ります。なかなかお会いできない方もありますが、皆さんのことを思いつつ祈るのは喜びです。

月曜日には教会便りを書き、礼拝を休まれた方がたに週報とともにお送りしています。少しでも教会的様子がわかりただければ、うれしく思います。

コロナ禍で、長い間、礼拝を二回に分けて行なうことが余儀なくされてきましたが、八月からは合同の礼拝となります。開始時間は午前一〇時半からです。賛美の時間も少し長くなり、交わりの輪も広がることかと思ひます。

牧師のメールアドレス

yonemura@ja2.so-net.ne.jp